

「今、何の病気が流行しているか！」

(川崎市感染症発生動向調査事業—令和4年第22週)の情報提供について

市内の定点医療機関から提供された感染症の患者発生情報をもとに市民提供情報である「今、何の病気が流行しているか！（令和4年第22週）」を作成しましたのでお知らせします。

令和4年第22週（令和4年5月30日から令和4年6月5日まで）

第22週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）突発性発しん 3）流行性角結膜炎でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.16人と前週（7.35人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.43人と前週（0.38人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.33人と前週（0.11人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

今週のトピックス

“新型コロナウイルス感染症～マスク着用の考え方～”について取り上げました。

新型コロナウイルス感染症流行下におけるマスクの着用について、厚生労働省が考え方を決めました。屋外では、他人と2m以上の距離が確保できる場合や、会話をほとんど行わない場合は、マスクの着用は不要です。屋内では、他人と2m以上の距離が確保できていても、会話を行う場合はマスクの着用が必要です。また、屋内、屋外を問わず、2歳未満の乳幼児についてはマスクの着用は推奨されておらず、2歳以上の就学前の子どもについてもマスクの着用は一律には求められていません。

特に夏場は熱中症防止の観点から、屋外においてマスクが必要のない場面では、マスクを外すことが推奨されています。感染対策としてマスクは重要ですが、必要のない場面ではマスクを外し、健康的に過ごしましょう。

川崎市感染症発生動向調査事業では、感染症のまん延の防止と市民の健康の保持に寄与するべく、市内の定点医療機関（小児科定点37施設、インフルエンザ定点61施設、眼科定点9施設、基幹定点2施設）等から報告された感染症発生状況をもとに集計を行い、市内の感染症の発生状況の正確な把握と分析、市民や医療関係者への情報の提供を行っています。

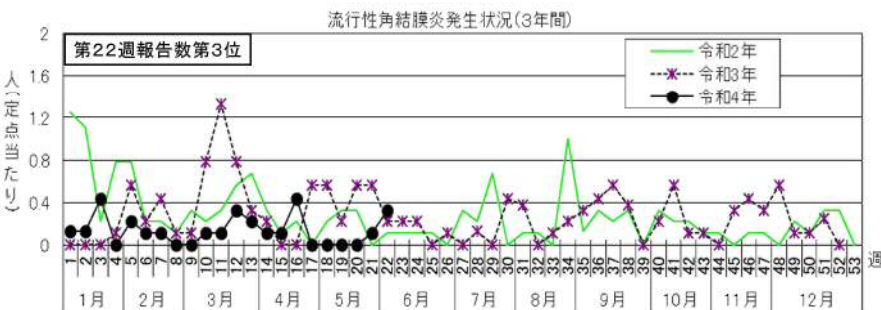
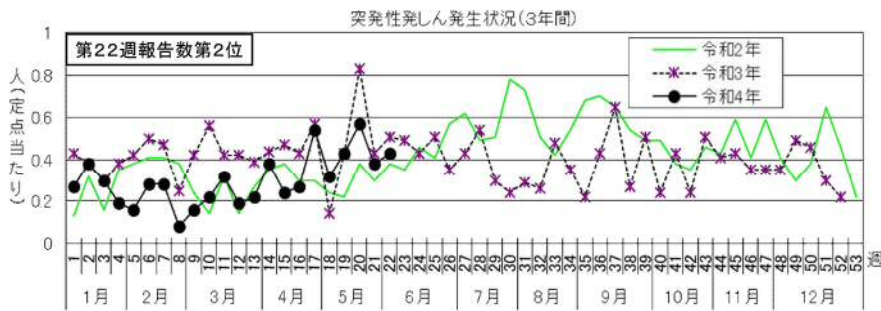
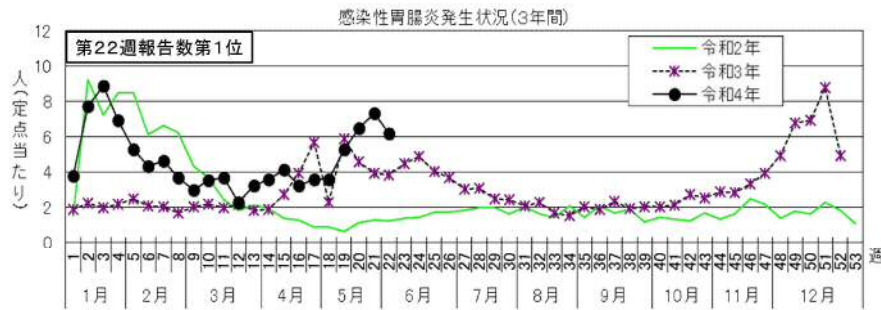
連絡先 川崎市健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当 野木
電話044（200）2446
川崎市健康安全研究所 三崎
電話044（276）8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年5月30日（月）～令和4年6月5日（日）〔令和4年第22週〕の感染症発生状況

第22週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 突発性発しん 3) 流行性角結膜炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.16人と前週（7.35人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.43人と前週（0.38人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.33人と前週（0.11人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



新型コロナウイルス感染症～マスク着用の考え方～

新型コロナウイルス感染症流行下におけるマスクの着用について、厚生労働省が考え方を決めました。屋外では、他人と2m以上の距離が確保できる場合や、会話をほとんど行わない場合は、マスクの着用は不要です。屋内では、他人と2m以上の距離が確保できていても、会話を行う場合はマスクの着用が必要です。また、屋内、屋外を問わず、2歳未満の乳幼児についてはマスクの着用は推奨されておらず、2歳以上の就学前の子どもについてもマスクの着用は一律には求められていません。

特に夏場は熱中症防止の観点から、屋外においてマスクが必要のない場面では、マスクを外すことが推奨されています。感染対策としてマスクは重要ですが、必要のない場面ではマスクを外し、健康的に過ごしましょう。

マスクの着用が必要な例

屋内

会話をする場合は距離を問わず
マスクを着用

十分な換気等感染防止対策を講じている場合は外すことも可



電車やバス等では
会話がなくても
マスクを着用



屋外

屋外でも近距离で
会話をする場合は
マスクを着用



厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策推進本部 マスクの着用に関するリーフレットより作成